▼▲▼

目　次

- いぶりのあらまし……２
- いぶりの農業……６
- いぶりの森づくり……９
- いぶりの水産業……１０
- いぶりの工業……１１
- いぶりのエネルギー産業……１３
- いぶりの観光……１４
- いぶりの商業……１６
- いぶりの交通・運輸……１７
- いぶりの消防・防災……１９
- 胆振東部地震からの復旧・復興…２０
- いぶりの社会福祉……２１
- いぶりの保健医療……２３
- いぶりの自然環境……２５
- いぶりの環境衛生……２６
- いぶりの交通安全……２７
- いぶりの文化・教育……２８
- いぶりの社会資本……３１
- いぶりの１１市町紹介……３３

胆振のあゆみ

１８６９年（明治 ２ 年）	開拓使を設置　蝦夷地を北海道と改称　１１国８６郡を設置 胆振国（虻田、有珠、室蘭、幌別、白老、勇払、千歳の７郡）
１８７１年（明治 ４ 年）	札幌開拓使庁を設置
１８７２年（明治 ５ 年）	札幌開拓使庁を札幌本庁と改称
１８７４年（明治 ７ 年）	樽前山噴火
１８７９年（明治１２年）	室蘭、苫小牧に郡役所を設置
１８８２年（明治１５年）	開拓使を廃止　函館、札幌、根室の３県を設置　札幌県の管轄となる
１８８６年（明治１９年）	３県１局を廃止　北海道庁を設置
１８９７年（明治３０年）	郡役所を廃止　室蘭支庁を設置（室蘭、有珠、虻田、幌別、勇払、白老の６郡を管轄）
１９０７年（明治４０年）	輪西村に製鉄所（現・新日鐵室蘭の前身）の建設開始
１９０９年（明治４２年）	樽前山噴火（溶岩ドームできる）
１９１０年（明治４３年）	王子製紙苫小牧工場操業開始　有珠山噴火（後に四十三山となる）
１９１８年（大正 ７ 年）	室蘭区を設置
１９２０年（大正 ９ 年）	洞爺村が虻田村から分村
１９２２年（大正１１年）	室蘭支庁を胆振支庁と改称し現在に至る　市制施行により室蘭区は室蘭市になる
１９２３年（大正１２年）	戸長役場全廃　町村制施行（６市　９９一級町村　１５５二級町村） 胆振支庁（１市　１町　１２村）　（※①：一級町村　②：二級町村） （室蘭市　苫小牧町①　幌別村②　伊達村①　弁辺村②　虻田村②　洞爺村②　徳舜瞥村② 壮瞥村②　白老村②　安平村①　厚真村①　鵡川村②　似湾村②）
１９３８年（昭和１３年）	虻田町 町制施行
１９４３年（昭和１８年）	有珠山の地殻変動活発化（後に昭和新山となる）
１９４７年（昭和２２年）	地方自治法施行　北海道庁を廃止　北海道を設置　豊浦町町制施行
１９４８年（昭和２３年）	苫小牧市 市制施行
１９４９年（昭和２４年）	支笏洞爺国立公園指定
１９５０年（昭和２５年）	大滝村が徳舜瞥村から改称
１９５３年（昭和２８年）	追分町 町制施行　鵡川町 町制施行
１９５４年（昭和２９年）	白老町 町制施行
１９５５年（昭和３０年）	北海道胆振合同庁舎別館竣工（旧庁舎・室蘭市幸町）
１９５７年（昭和３２年）	早来町 町制施行
１９５９年（昭和３４年）	北海道胆振合同庁舎本館竣工（旧庁舎・室蘭市幸町）
１９６０年（昭和３５年）	厚真町 町制施行
１９６２年（昭和３７年）	壮瞥町 町制施行　穂別町 町制施行
１９７０年（昭和４５年）	登別市 市制施行
１９７１年（昭和４６年）	北海道開発審議会が苫小牧東部開発基本計画を了承
１９７２年（昭和４７年）	伊達市 市制施行
１９７７年（昭和５２年）	有珠山噴火
１９９３年（平成 ５ 年）	千歳市、苫小牧市、恵庭市、白老町、早来町、追分町、厚真町の７市町が地方拠点都市指定
１９９８年（平成１０年）	白鳥大橋開通
２０００年（平成１２年）	有珠山噴火
２００６年（平成１８年）	大滝村が伊達市に編入合併。虻田町と洞爺村が合併し「洞爺湖町」に、 早来町と追分町が合併し「安平町」に、鵡川町と穂別町が合併し「むかわ町」となる
２００７年（平成１９年）	第５８回全国植樹祭開催（苫小牧市）
２００８年（平成２０年）	北海道洞爺湖サミット開催
２００９年（平成２１年）	北海道胆振支庁が「むろらん広域センタービル」へ移転（新庁舎・室蘭市海岸町）
２０１０年（平成２２年）	北海道総合振興局及び振興局の設置に関する条例施行により、胆振支庁から胆振総合振興局となる 西胆振６市町が室蘭市を中心市とする「西いぶり定住自立圏」を形成
２０１６年（平成２７年）	東胆振５市町が苫小牧市を中心市とする「東胆振定住自立圏」を形成
２０１８年（平成３０年）	９月６日午前３時７分　北海道胆振東部地震発生（最大震度：７　厚真町）
２０２０年（令和 ２ 年）	ウポポイ（民族共生象徴空間）開業

胆振（イブリ）という名の由来

「日本書紀」によれば斉明天皇の代、阿部臣が北征した時に、胆振鉏（いぶりさへ）の蝦夷を宴会に招待したという。
古く新井白石が胆振鉏とは北海道の勇払（いぶつ）地域のことではないかと物の本に書いている。
明治初年、松浦武四郎が北海道の国郡名について「噴火湾の山越内から沙流境迄を一国にしたい。その中で、勇払は大場所でアイヌも多いから、中心地としたらよい。」とし、その国名としては「日本書紀の胆振に気が付いたので、胆振でいかがでしょうか。」と北海道開拓使長官に建議した。それで胆振という国名ができた。　（北海道大百科事典から）